

●曲金時代（明治29年～43年）

▽明治29年（1896）

8月12日・静岡県安倍郡豊田村字曲金（現静岡市曲金）一番地で生まれた。

父伊三郎、母遊佐の長男。本名厚一。のち、長頸子（チョウケイシ、俳句関係）、厚（アツシ、主に童謡、詩作品）、順風（ジュンブウ、海国少年誌所載のもの）の筆名を使う。

家は、江戸時代初期より安倍郡に住み、父伊三郎で十一代目の旧家。江戸化政期の文人山梨稲川が同家を詠じた七律の紙本一軸が伝わるが、七言八句中、「奕世久知能好文 訪尋投宿揖清芬」とも、「尚古高情貯書画 至今餘興寄耕耘」ともあり、あと書に、「宿芙蓉山房呈主人」と記す。（「芙蓉」は富嶽を言い、八句中「復倚晴窓眺嶽雲」とあって、この生家からはよく富士を眺めることができた）

母遊佐は、同県島田市天野廉の長女。静岡英和女学校（現静岡英和女学院）明治26年第1回卒業。廉は漢詩文に長じ又書をよくし、後に島田市長たりし人。

厚一には弟妹、亮之助、欣也、三千代、初代、千々代、春樹の6人がいた。

（俳句関係の筆名「長頸子」は、厚一は容貌的に頸が長い感じでもあったが、長頸鳥喙之徒なる漢語に由来する。弟亮之助の俳名は「鳥喙子」である）

▽明治32年（1899）

5月17日・亮之助生まれる。（昭和3年10月歿す。行年31歳）

▽明治34年（1901）

6月10日・欣也生れる。

▽明治36年（1903）

4月・豊田村立西豊田小学校尋常科一年入学。この小学校は現在も同所静岡市曲金にあり、校内に、「背くらべ」全歌詞を刻んだ童謡碑がある。（昭和36年11月建立。付録顕彰事跡に収録）

8月12日・満7歳。

11月・母方の叔父、天野卓の婚礼が島田市7丁目の同家で行われ、盃事の男蝶役をつとめる。女蝶は森百代であった。

月日不詳・生家である曲金の家屋敷の一部？を解体、（現存の古い写真を包んだ和紙に母遊佐晩年の筆跡で、「なつかしのわが家 明治36年この家をこぼつ」とあるが、他に曲金宅の庭で一家を写したものに明治43年10月の裏書きがあるので、この年の解体は一部と思われる。）

▽明治37年（1904）

6月11日・三千代生まれる。（明治32年歿。行年53歳）

8月12日・満8歳。

幼な友達の小田重太郎（静岡市曲金在住）はこの頃の厚一について、「なにしろ普通の家とは違うからすべてに状況が違い、みんな（兄弟の意？）久留米絣を着て、われ／＼は地織で、着る物から違って、おとなしく遊ぶとおやつなんか頂いた。」